



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	北鮮西鮮の共同作業
Author(s)	鈴木, 栄太郎
Description	手書き原稿 12頁。
Issue Date	2020-04-10
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/77414
Type	manuscript
File Information	B013_0211.pdf



あゝうゝ、あとして、位銀の~~甚~~力定をすゝ事はな
 〇 広、耕也の宋七狹、耕也の宋も不平は玉は
 ぬ。男、女、老、若、皆出て御いへ。片。

無償銀、力奉仕の、増行の制を、とし、御徒と

附^ボ近^{ケン}かゝる。即徒は四祭の時に一洞^内の各戸か

ゝ奉仕に出、制多、いゝ。奉仕、いゝ。宋では

酒会を出して厚く遇す。十歳以下の幼童か

死んだ場合には即徒は行けず、附近^内にや。

ボクン、は全く一才の援助、受けとる者は

此に西^ニ中^ニ何事もしない。御徒は酒食を供^ス
 する事によつて幾分謝恩の意が表はれて片^クだ。
 近^ニは厚^ク厚^ク的^ニには、病人を困^ラす宋^ノの爲^ニなり。
 洞の尊位が全洞民を率^イいて除^ス草^ヲやと^シて
 やる事^ヲい^フ事^ヲ。[○]ポグンは今^ニは^ニ今^ニは^ニ行^ハけ^テ片^ク
 だ。家の新築の時^ヲい^フに^シポグン^ヲを^シ行^ハけ^テ片^ク
 グン^ハ一洞全戸お^シ場^ヲ合^スし^タり。又^ニ時^ニに^シ近^ニ縁^ヲ
 公^ノ教^ヲ人^ヲが^シ行^ハけ^テ場^ヲ合^スし^タる。宋^ノの^ニ建^ス築^ス、[○]病人^ノ
 子^ヲ。[○]時^ニ、[○]其^ノ他^ノ何^ノか^ノ困^ラす^ニ時^ニに^シ行^ハけ^テ片^ク
 規^ニ模^ニは^シ公^ノ
 規^ニ模^ニは^シ公^ノ

勇々、實際に指揮をす。附近は同族とは関係
 はないか、近くに住ん、片丸は同族か附近を
 行々場合もある。

本来附近とは部落と云ふ意味である。それ

で、これは洞と云ふ事をフクンと云ふ。フ

クン毎に山があり又毛首と云ふ、今も尊位と

この下に公男が居る。明の郡一般に大体同一

様である。

下雲南明の洞の中には七他の部落即ち附近

か金も小く片である。その小なる附近は洞と呼は

北門洞

明川洞の七階迄

北門洞 三十七戸

東門洞 五十二戸

水口洞 三十八戸

藍橋洞 四十戸

三岐洞 三十八戸

瓦見洞 三十六戸

校前洞 三十八戸

北門洞以下は所渭旧洞里、明川洞は洞里、

あ。フグンは旧洞名の別名であ。フグン
 には今も昔のまゝの尊位、公員の役員か
 ぞ。明洞は今部族聯盟をじつは二天に分
 れて片。東部形勢におりては明洞は七部
 族相隣接して一大部族をなし、片。さくよ
 り部是といふところであ。かゝる明洞は
 東部形勢におりては都市的であ。

フグンの尊位と公員とは、今日の区長の外
 にあつたて、全く部族の自治行政機関であ
 る。尊位公員の選挙は互選であ。かゝる部族

か指名す。つか係である。尊位は何年も重任
 する。か、公員は毎年交代する。尊位は部族の
 の一番の一番の人望をて高擧する。公員
 は若くよく働く人である。今の選出は行政
 機関として必要である。尊位公員はよくの
 各部族の自治的行政事は自から他に任せる。
 即ち部族の慶弔の時の代表。不良者の訓戒
 他部族との交渉等色々にある。尊位は必ずし
 も優遇してある。山神の一月と七月歟城の
 事にあつた
 時に祭席をある日もあつた。手として此二人である。

公の選舉は正月の致戒のあと其日に次の公
 員を決めぬの例であらう。その時は公員の電
 報集まる。公員も古例に中流以上人宋かゝる
 日。尊位かゝるにふくむ合は他にはない。尊位
 は高貴であらうから實際の職務は皆公員かつとあ
 るのであらう。附近を行なう場合には尊位公員か
 中へとなす。

平南順山郡仙沼薩摩見鳳下詔大村に於け

る若同作業と即土軍

ヒヤントク

順山郡内にはおくらすワレは行はれず、

マシは行はれず居る。若同作業取は郡内には

一般に甘く行はれず片有へ。平富郡安~~州~~郡に

は十四五年前より即土軍と云ふ農業者御隊の

組織がある。か今では無い。即土軍は概ね

組織的でない。御隊は、隊長の命令は絶対に従

順はれず居る。耕地への侵入には角笛を吹

し、交通を断ち、道路に掃いなく、直線に進んで

年と云ふ。年不足の田を借銀を以て此
 等御隊に作事を依頼す。のいふ。即土庫の
 除名は自宗に耕地の少く宗の子弟を考へし
 大抵二十才より三十五才位の若より成つて
 居る。一時佐川郡といふ郡の思案指導員が此
 御土庫の制を貴族に紹介して居る。今後は其の
 事を知り。

薩摩県には田村といふ村に昔から人夫を
 入れし居る。今更にかゝる事といふ。どうして
 やういふ事を察して居る。云々。あつた。其

同作 某 現は去年まで 行つて 所 有い。二三 所

マシ 現 する あり である。今年 未だ である。

す 妻 娘 は 女 も 盛ん に 留 に 出 入 所 有 なる ところ。

苗 取 入 大 は 昔 あり 女 の 仕事 と し て 行 入 所 有 なる ところ。

か 今 日 まで 苗 取 入 は 今 迄 留 の 除 草 に も 女 あり なる ところ。

村 に あり なる ところ。 留 入 田 に も 男 も 女 も 働 け いる ところ。

総 出 である。 平 南 の ^{リユーコー} コーサ の 西 郡 又 は、

男 は 留、 女 は 畑 と あり あり 昔 あり の 所 である。

他 郡 には 此 迄 所 有 なく 女 も 苗 取 入 には 出 入 所 有 なる ところ。

	たし、その他	の作業は向流	出業と下の	は皆行
	て	みえ。	田植等の	休業日とし
	い。	平日より	幾分よい	甲斐主を食ふ
	る。	氏に多忙な	月の場合は	
五月	九月	四月と六月	七月	
最も困難	の冬一	月の場合は		
十二月	一月	二月の順	序である。	